

高齢者を支える仕組み



久保さん：私の妻は町内会の役員をしていますが、高齢の方の家を週に一度は回って、大きな声で話して一緒に笑っています。これからの社会はこういった身近なところでの交流や対話が大事になってくると感じています。

上田市長：笑うと元気になりますよね。お互いに声を掛け合い、引きこもらないで、笑い合えるような場所があって、気軽におしゃべりをしたり、家を回ったりといった活動ができる人がもっと増えればいいと思っています。

おおさき

大崎さん：私の町内会では毎朝ラジオ体操をしたり、週に1回ウォーキングをする「歩こう会」という活動をしています。「歩こう会」では施設の談話室を借りて、歩く途中に参加者同士で話をする時間をつくっています。他にも1泊の旅行会もやろうと計画しております。

一人暮らしの高齢者が多いので、町内会を5グループに分け、福祉リーダーを中心に、一人暮らしの方に外に出てきてもらうには何がいいか考えているのです。町内会では高齢者マップを作り、老老介護も皆でやろうと話しています。



上田市長：本当にブラボーという感じですね！まちでいい活動をされて、広まっていくことがとても期待できる内容です。お話の取り組みは、理想的なコミュニティーづくりだと思います。

旅行に行って、一緒にお風呂に入ったりして裸の付き合いをすると、心が開いてくるような感じもしますので、とてもいいと思います。

みんな生き生き きれいなまちに

大崎さんのお話に出た町内会では、4～11月に毎朝行っているラジオ体操に自然と人が集まり、1日の平均参加者は13人。夏休み期間は子どもたちも合わせて総勢100人になることも。

ラジオ体操の集まりの有志から、「歩こう会」や旅行に活動が広がり、他にもさまざまな行事の開催によって、町内では顔見知りが増えていきました。すると、自分たちの町内をきれいにしようという意識が広がり、ごみステーションが自然ときれいになっていったそうです。



参加者の感想



野口さん：幅広い世代の方がいろいろな見識を持っていることを学ぶことができたので、非常に有意義でした。

金子さん：地域をよくするためには、行政と地域が手を結び合って頑張っていくのが一番いいと思います。※金子さんの対話内容は全市版7ページにも掲載されています。

久保さん：今日は市長に会えるということで、襟を正して待っていました。またこのような機会がありましたら参加したいです。

「ふらっとホーム 2012 in 南区」では、ほかにも、がん対策など健康の話題、災害が起こった際の地域における高齢者・障がい者への支援など、さまざまな観点から参加者と市長が意見を交換しました。

参加者は、無作為に抽出された区民の方へ案内をお送りし、応募された方の中から抽選で選んでいます。

機会がありましたら、みなさんもぜひ「ふらっとホーム」にご参加ください！

